

第 25 回（生活支援）分科会報告書

1. 開催日時：平成 26 年 5 月 23 日（金） 13：30 ～ 15：00
2. 開催場所：筑陽会 赤坂園
3. 参加者（所属のみ）：南筑後 HWE、八女市包括、東包括、広川町包括、若楠園、蓮の実団地、蓮の実園、ミライプラス、夢工房、陽だまりの里、おおぞら、サングリーン、年輪の園、ふるさと、八女市家児相、ゆうゆう、ゆうゆうハイツ、社協、飛形学園、八女市、広川町、リーベル、久留米地域活動支援センターあすなる
4. 実施内容
 - 「発達障害」について 研修（ぱっそ：田島 氏）
 - ・発達障害は、通常低年齢において発現する。高次脳機能障害と特性は似ているが、発現の時期が違う。
 - ・明確な診断は難しい。診断名で当事者を判断せず、特性で見るのが大切。
 - ・アスペルガー症候群、広汎性発達障害について、最近は「自閉症スペクトラム」という診断名が出て来た。
 - ・療育手帳の取得の IQ について（福岡県の場合）18 歳以下：IQ70 以下、18 歳以上：IQ75 以下。
 - ・学習障害・・・一般的な知的の発達に遅れはない。
 - ・注意欠陥多動性障害（ADHD）・・・最近は「注意欠如」との記載もある、同じもの。思春期以降は症状が目立たなくなるとも言われる。（対応の方法を学ぶ）
 - ・自閉症・・・目に見えないものが分かりづらい。「おはよう」と「こんにちは」の切り替えなど。注目して覚えないと理解できない。知らないかもしれないと思い対応すること。
 - ・アスペルガー症候群・・・明らかな認知の発達、言語発達の遅れを伴わない。コミュニケーション的対応は出来るが、的確に使えない。発見が難しい。18 歳以上の相談が多い。
 - ・トゥレット症候群・・・ストレスの他に、脳機能上で出ることもある。「死ね、殺すぞ」口が勝手に動くこともある。
 - ・かかわりについて（基本）・・・気になる行動は、行動の前後を観察。（行事の前に飛び跳ねる行動：いつ、誰とどこに行くのか不安なのかも。気持ちと言葉は一致しなくて行動に出る。言葉の情報が多すぎて理解できない。「はい」と言ってその場を逃げる。旅行などは事前にパンフなど視覚から伝える。見通しが出来ると動きやすい。
 - あおぞら：現在 1300 人の登録。年 150 人ずつ登録が増えている。スタッフを派遣しての研修会も対応できる。（謝金は不要。県から支出）
 - 質疑応答
 - ・こだわりへの着目：不安の裏返し。その方法だけしかインストールされていない。選択肢があれば変化する。こだわりは変わらないと思わない。こだわりで得ているものは何か考える。
 - ・施設からの相談：事前に 3 点を教えて欲しい。
 - 1：どんな行動をしているのか？
 - 2：原因はあるのか？
 - 3：どのように対応しているのか？